

越教組ニュース

越谷市教職員組合
情宣部
18.01.23(火)
Tel 988-3281
Fax 988-3283

「働き方改革」が叫ばれています。政府が進める「働き方改革」が真の改革になるかは別としても、ブラックな働き方を是正して人間らしい働き方を希求する声は日に日に高まっています。教職員の長時間過密労働も社会問題としてクローズアップされるようになりました。文科省も教職員の多忙化解消を意識した対応を少しずつ示してきています。今は不十分でも、この流れを閉ざさずに進めていくことが求められています。

文科省も深刻な状況を認識

文科省は昨年度『学校現場における業務の適正化に向けて』と題した報告書のなかで、「次世代の学校指導体制にふさわしい教職員の在り方と業務改善のための骨子」として四つの柱を打ち出しました。

- ・**一**の柱 教員の業務に専念できる環境の確保
- ・**二**の柱 教員の部活動における負担を大胆に軽減
- ・**三**の柱 長時間労働の見直し

中教審の中間まとめでは

- ・学校外が担うべき業務
- ・必ずしも教師が担う必要のない業務
- ・教師の業務だが負担軽減

が可能な業務

文科省・スポーツ庁の名前で、中学校や高校の部活動について、休養日を適切に設けるよう全国の教育委員会などに通知しました。

これらからは、教職員の多忙化を抑制し、ひいては、児童生徒の健やかな育ちを保障しようとする熱意が感じられます。

定数改善へ

しかし、これらだけでは多忙化解消にはなりません。定数改善などの条件整備がなされてこそ、ゆとりが生まれます。一月二十一日付の朝日新聞には一面で教員数の増加を訴える記事が掲載されました。

「全国の公立小中学校で、国が決める教員定数とは別に、都道府県・政令指定都市の教育委員会が、計約一万人の教員を配置。教員の多忙化が問

題となるなか、独自にとりくんでいる結果だ。アンケートでも八十七%にあたる五十八教委が、「多忙化解消のためには、教職員の増加が必要」と答えている。」

時間管理

機器の導入

越谷市教育委員会は、勤務時間のICカードによる把握を始めました。この背景には、過労死につながるような長時間過密労働があることはいうまでもありません。

しかし、職場の中には「なぜこんな面倒なことをするのか」「時間を把握して

握しても給与や休暇にかされない」「学校にいる時間が長いことが管理職に知られると叱られる」というような否定的な声もあります。なぜ勤務時間を把握するのでしょうか。

一つは、職場環境の見直しのためです。超過勤務を個人の責任にしていけません。全体的なデータをもとに各学校の衛生委員会などで、職場改善を話し合い、多忙化解消へ歩みを進めます。

二つ目は、自分の働き方を見直すためです。数値化された勤務時間から自分のライフワークバランスを見つめ直すことができます。

三つ目は、不幸にして倒れたときの補償のため

です。労災申請には数値化されたデータが役立ちます。

四つ目は、部活動の見直しのためです。中教審などの文科省諮問会議は、部活動の休養日設定や諸業務の見直しなど負担軽減策を発表していますが、勤務時間把握を前提としています。

越谷市は二学期に「ストレスチェック」も導入しました。これも、職場環境の見直し、自分の働き方を見直し、労災の補償につながります。確かにICカード導入直後に、長時間過密労働の解消にはならないでしょう。しかしこの流れは間違いなく解消への一歩になるでしょう。

福井県議会の教育行政への意見書に注目集まる

昨年十二月十九日、福井県議会は、教育行政の抜本的な見直しを求める意見書を可決したと各メディアが報じました。これは、昨年三月に県内の中二の男子生徒が自殺したことを受けてのことでした。

意見書では、「学校の対応が問題とされた背景には、学力を求め、あまりの業務多忙、もしくは、教育目的を取り違えることにより、教員が子どもたちに適切に

対応する精神的を失っている状況があったのではないかと懸念するものがある」と指摘しています。ここでいう「学力」とは「全国学力テスト」を強く意識したものであることは言うまでもありません。意見書では「『学力日本一』を維持することが、教育現場に無言のプレッシャーを与え、教育、生徒双方のストレスの原因となっている」と考

多忙化解消への歩みをとめるな

中教審「中間まとめ」 文科省 部活動休養「通知」 越谷市「時間管理システム」等の先を見据えて

中教審中間まとめが示した学校・教師が担う業務の明確化・適正化

学校外が担うべき業務

- 登下校の指導 見回り・補導
- 徴収金 地域ボランティア

必ずしも教師が担う必要のない業務

- 調査・統計
- 休み時間の見守り・指導
- 掃除指導 部活動指導

教師の業務だが負担軽減が可能な業務

- 給食指導 授業準備
- 評価・成績処理 学校行事
- 進路指導
- 支援が必要な児童・家庭への対応